

飛騒市学園構想

SUPER COMMUNITY SCHOOL

多様な人と協働した
避難所設営訓練



市では、飛騒市学園構想の「世代を超えた学び合い」の取り組みとして、学校と危機管理課、地域の防災士会とが連携して地域防災を学ぶ取り組みを進めています。

◆防災士と中学生による訓練

市では令和4年度から避難所運営協力防災士制度という独自の制度をスタートしており、77名が登録しています。これは災害時に市職員と防

災士が協働して指定避難所の運営を行う制度であり、市の避難所訓練に参加した防災士を認定する仕組みです。

今年度は11月10日(日)に古川中学校にて1年生110人と協力防災士40人による避難所設営訓練を開催しました。



プロの料理人と中学生による防災食づくり

◆初めての協働訓練

実践的な訓練を行うことにより

防災を身近に捉え、自分事として考え、自ら取り組めるようにすることを目的とした今回の訓練では、市内外の多くの企業や関係者の協力によりこれまでにない本格的な訓練を開催することができました。

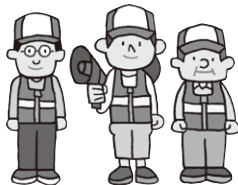
◆食寝分離と「T・K・B」

食寝分離の文字通り、食べる場所と寝る場所を分ける事を体現するために校舎内に「仮設食堂」を設置し、南吉城調理師会の協力により地元食材を使った防災食を中学生が調理しました。

また、避難所の衛生環境を整えるため「T(トイレ)・K(キッチン：食事)・B(ベッド：寝床)」を整えることが重要である事を学びました。

問 学校教育課 ☎0577-73-7494

飛騒の防災 おまかせさん



雪まじりの雨の中、研修企画部が計画した視察研修が行われました。行き先は、富山市にある四季防災館です。

この施設は、体験型学習施設で、富山県広域消防防災センター内にあります。防災士会会員15名で行ってきました。

今回は、視察研修の中で体験したことや、研修を通して感じたことを紹介

します。

【地震体験】

マグニチュード1から7まで順に揺れを体験しました。

揺れがくると分かっていても強い揺れになると立っているのを保つことが難しかったです。

これでは不意に揺れがきたら倒れたりしてしまうかもしれないと思いました。

【煙体験】

煙の充満した狭い部屋に入り、壁つたいに出口へ出る体験をしました。前が全く見えず恐怖を感じました。

声出しをすることや、壁をつたい腰をかがめて歩くことで、煙を吸うことや転倒のリスクを減らすことにつながると分かりました。

【暴風雨体験】

カッパにゴーグルをつけた状態で、雨風が徐々に強くなる状況を体験しました。

周りが見えにくくなり前に進むことが難しく、かなりの危険を感じました。

【流水体験】

全身防水スーツを着た状態で水がある場所を歩く体験でした。水深がどんどん深くなり流れも早くなる状況で長靴を履いたままだと歩きづらかったです。

実際に体験して、長靴では水が入る可能性もあることに気づき、しっかりと脱げない靴を履くことも大事ななと感じました。



今回の視察研修を通して実際に体験する中、これまで知識として知っていただけの災害状況を身をもって理解することができました。

今後の防災講座において実体験として話す事ができ、市民の皆さんにより分かりやすく状況を伝えることができると感じました。

子どもから大人まで幅広く勉強出来る、素晴らしい施設でした。

こんにちは 市民病院です

飛騨市民病院20周年
これまでとこれから
管理者兼病院長 黒木 嘉人

飛騨市民病院は、昨年、飛騨市とともに20周年を迎えました。

これまで特に取り組んできたのは医師不足対策です。常勤医の著しい減少によって、一時は最低で3名となりました。大学病院からの派遣を依頼しても、常勤医の派遣は容易でなくなっており、人材育成と教育に力を入れ、自ら育てる方針に舵を切りました。

努力の成果として、初期研修医が毎年、県内外にある10ヶ所の大きな病院から一人1ヶ月間ずつ、合計で

40名を超えて来てくれるような人気病院となりました。

併せて常勤医も徐々に増加し、現在は6名となっています。また、卒後3年を超えた専門研修専攻医が1～2名、さらに常に初期研修医が3～4名いることで、医師数は10名を超えるまでにV字回復しました。このような取り組みを学会等で発表しており、当院は全国から大いに注目されています。

一方、看護師の確保は、「里山ナース®」のネーミングを用いた当院独自の院内認定制度を立ち上げ、看護師の教育研修にも力を入れています。その結果、在職中の看護師のモチベーションが向上するとともに、新人看護師も入職するようになり、これも全国から注目されています。

しかしながら、看護師不足は依然として深刻で、現在もギリギリの人

数でなんとか運営しています。

さて、今後は地域の人口減少と著しい少子高齢化が一層深刻になる中で、現在の建物も築34年を過ぎ、老朽化も進行しています。当院のこれからのあり方についても検討が必要です。年々自然災害が甚大になっている地球環境において、建物の災害対策も無視できません。

当地域としては、皆様の命と健康を守り続ける使命を全うしつつ、将来当院がなすべきこと、そうでないことなど医療の需要や実情に応じた姿を、地域の皆様と共に考えていかなければなりません。今後とも温かいご支援をよろしくお願いします。

問 飛騨市民病院
TEL 0578-82-1150



そろそろ 終活

<その58> はじめませんか？

大切なのは 家族での話し合い

親の終活はどのように進めたらよいのかという疑問や心配を持つ人は案外多いのではないのでしょうか。

親も元気であれば、自分の力で終活を進めることができるのですが、歳を重ねるにつれ体力や判断力が衰えてくると、出来なくなる可能性が高いのです。

親に終活を始めてほしい場合、ただ単に「終活してほしい」と言うのではなく、お正月やお盆など家族が集う時を利用して、まずは家族で将来について話し合うことが大切で

す。

準備すべき事柄としては、最初にエンディングノートを書いてもらいましょう。この時もただ「書いて」と言うだけでなく、その中には家族との意思疎通を図っておくべき項目も多いので、お互いに確認しあいながら書いてもらいましょう。

この時に財産管理の情報を共有しておきたいものです。親が病気やケガなどで判断能力が低下した場合、金融機関口座の財産管理などは出来なくなる恐れがあるからです。

また、相続に関するトラブルを避けるため、遺言書を書くことも話し合っておくと安心です。

そのほか、自宅の物品整理や片付けも、親と一緒に少しずつ行っておくことをおすすめします。時には、捨てる捨てないで揉める事もあるかもしれませんが、無理強いせず、今は捨てられなくても、その物の行

く末はどうしたいのかという希望だけでも聞いておくことが大切です。

終活は非常にデリケートな部分もあるので、なかなか話しにくいものですが、話すことをためらってばかりいると、時に問題を大きくしてしまうということもあります。

終活を行う年齢に決まりはありません。早め早めに家族で話し合っていくことが大切です。



問 飛騨市終活支援センター
(飛騨市社会福祉協議会内)
TEL 0577-73-3214